

志願しトラック諸島へ 指揮する軍属が次々餓死

先日、差出人不明の一通の封書が俳人、金子兜太さんの埼玉熊谷市の自宅に届いた。新聞記事の切り抜きと、手書きの便箋が一枚。

記事は埼玉県のある公民館が、地元の愛好会が選んだ投稿俳句「梅雨空に『九条守れ』の 女性デモ」の広報紙への掲載を拒んだことを報じていた。「世論を二分する問題だから」が拒否の理由だ。便箋には「自由に俳句を作れる世の中に、先生のお力添えをお願いします」とあった。

「誰が送ったか分からんが、とんでもねえ時代になったと感じているのは私だけじゃないんだね。どこか変ですか? 穏やかで平和な句ですよ。なのに、今やこんな句までやり玉に挙げられる。あの時と同じですよ」。扇風機だけが回る庭に面した書斎で、金子さんが首を振った。

旧制高校時代、俳句誌「土

今も唱える死者の名

いとひとい目に遭う」と「だから昨年の特定秘密保護法成立時も嫌な予感がした。さらに他国の戦争に介入できる集団的自衛権行使容認の閣議決定、地元の俳句掲載拒否問題が息苦しさをもたらす。「秘密保護法だって必ず適当な理由を付けて拡大運用する。特に集団的自衛権、ありや何だい。安倍さん(晋三首相)みたいに『死の現場』を知らねえ連中に限って、『自衛だ』とか言って戦争に首を突っ込みたがるんだよなあ……。声は時折かすれるが、話せば話すほど、厚いまぶたに埋まった瞳が光を帯びてきた。

金子さんにとって「死の現場」とは、西太平洋トラック諸島(現ミクロネシア連邦チューク諸島)での出来事を指す。同諸島には連合艦隊の拠点となる基地が置かれていた。東京帝大を卒業した金子さんは44年3月、海軍主計士

官として赴任する。基地の設営・修繕のために徴用された軍属約200人を指揮した。「大学で大国が植民地争奪のために戦争する仕組みを学び戦争に批判的ではあったんです。でも貧困にあえいでいた郷里の埼玉・秩父の大人たちが『戦争が起れば景気が良くなる』と言っていたのを聞いて育って。恥ずかしい話だが『豊かになるなら戦争も悪いことだけじゃない』という意識があった。だから志願して最前線に赴いたんです」。高揚感、あつという間に崩れ去る。赴任して4カ月後には武器や食料の補給が途絶えた。手製の手投げ弾が作られ、爆発実験が金子さん率いる軍属に命じられた。「軍属は人間扱いされなかった。だからむちゃな命令が来る。それでタナベさんという人が志願して、海岸で実験しようとしたら……」

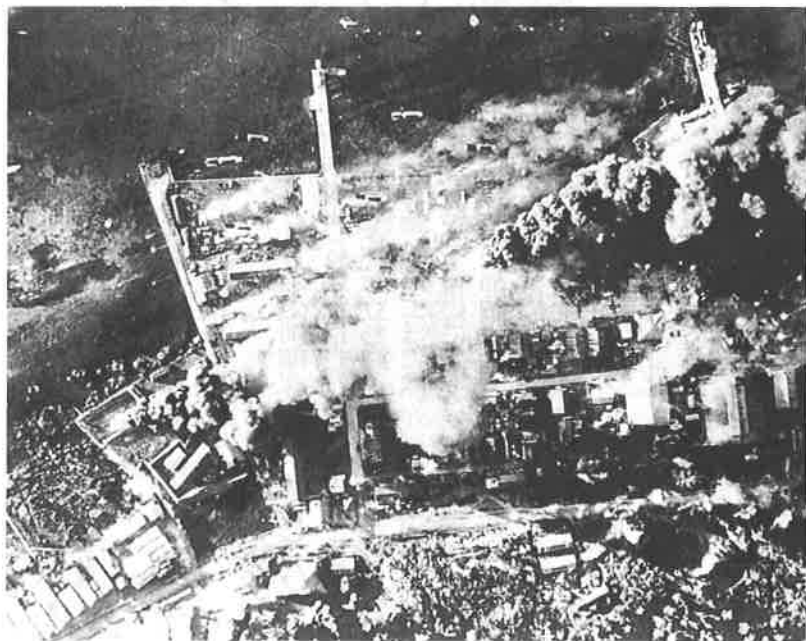
タナベさんが持っていた手投げ弾が突然爆発した。体が

俳人

金子兜太さん(94)



かねごとつた 1919年埼玉生まれ。東京帝大経済学部卒。旧制水戸高校時代に俳句作りを始める。46年に復員後、日本銀行勤務の傍ら62年に俳誌「海程」を創刊。中村草田男らとともに戦後俳壇をリードした。句集に「少年」「東国抄」など。現代俳句協会名誉会長。2003年、日本芸術院賞受賞。川内藤絵美撮影



米軍機に爆撃されるトラック諸島の日本軍基地。金子さんは「爆撃や機銃掃射の犠牲者もたくさんいた」と話す=1944年

えかねた軍属は食べ過ぎて腹を壊し、死期を早めた。「朝見回ると、やせて小さくなった男たちがあちこち転がって死んじまって。彼らは軍人じゃねえ。食うために島に来たのに、飢えて死ぬ。哀れでたまらんかったなあ」

わずかに残った漁船で漁に出る、米軍機の機銃掃射で死ぬ。飢えのあまりフグを食べ、て死ぬ。金子さんは「死のオンパレード」と呼んだ。「いゝろんなことがあった。あり過ぎましたなあ……。豪放ら落人柄で知られる俳人の言葉が、そこで途切れた。

終戦後、1年4カ月の捕虜

攻めに転じなくてはならない時だというのが、どうして守りに入ってしまうのか。そんな疑問を感じないわけにはいかない。もちろん、海江田万里代表が統投の意向を表明した民主党的ことだ。

結論から言えば、海江田氏は党内からの要求に応じて代表選を前倒しして実施すべきだった。つまり代表は交代すべきだったと思う。多少ゴタゴタしたにせよ、今のようなモヤモヤを引きずるより、よほどましだ。それとも代表を争うエネルギーさえなくなっているのだろうか。

熱血! 与良政談

与良正男

若いリーダーを育てよう

民主党的の置かれている厳しい状況は世論調査を見れば明らかだ。確かに安倍晋三内閣の支持率は低落傾向にある。ところが政党支持率を見ると民主党的の支持率はピクリとも動かない。毎日新聞の6月末の世論調査によると自民党的の支持率が29%だったのに対し、民主党的はわずか4%。野党第一党といながら、この数字は中小政党的のレベルといっている。



「安倍政権に不満や不安はある。でも、どの党ならいいかとなると見つかからない」。全国を回っているこんな声をどれだけ聞くことか。モヤモヤを解消する方法は限られて

解と言うが、相変わらず党内はまちまちで、党として明確なメッセージが伝わらない。ここは分裂も恐れず、とことん詰めないと国会も選挙も戦えない。

もう一つは若いリーダー候補を育てよう。かつて長い野党時代が続いた英労働党はブレア氏を20代の新人のころから長老たちが「将来性あり」と目をつけて我儘を重ねて育てた。その後、労働

党が右腕は吹き飛び、背中が割れていた。近くで実験を指導していた少尉も心臓に破片が突き刺さり、もがきながら死んだ。初めて人の死を間近で見た瞬間だった。なにが「戦争も悪いことだけじゃない」ですか。自分の甘さが心底、嫌になりましたな」

農業経験のない軍属を指揮してイモ栽培を試みたが、収穫間近という段になって虫に食われて全滅。わずかな食料も軍人に優先的に配給され、軍属には届かない。皆、みるみる飢えていった。

「軍属たちを見回ると『主任(金子さん)、腹減った、何とかしてくれ』って細かい声で言われて。主計士官は飯を食わすのが仕事ですが、どうしようもない。『腹がすかないように寝ている』と命じることしかできなかった」

柔らかな雑草を「南洋ホウレンソウ」と名付け、海水でゆでて食べた。ひもじさに耐

率していた俳人、
評価され、投句が
版面を飾った。その
41年2月、治安
反容疑で逮捕され
「進歩的思想を帯
が理由とされた。
花して留置場で略
されたが回復せず、
4歳で死去した。

「東京・牛込の自
ら嶋田先生は座敷
に現れて。『(な
か)分らん、分
つづいて、こう
治安維持法によ
誇大に扱われるよ
君には美感がない
わきまえておかな

いとひどい目に遭う」と

だから昨年の特定秘密保護
法成立時も嫌な予感がした。
さらに他国の戦争に介入でき
る集団的自衛権行使容認の閣
議決定、地元俳句掲載拒否
問題が息苦しさを募らせる。

「秘密保護法だって必ず適当
な理由を付けて拡大運用す
る。特に集団的自衛権ありゃ
何だい。安倍さん(晋三首相)
みたいに『死の現場』を知らね
え連中に限って『自衛だ』と
か言って戦争に首を突っ込み
たがるんだよなあ……。声は
時折かすれるが、話せば話す
ほど、厚いまぶたに埋まった
瞳が光を帯びてきた。

金子さんにとって「死の現
場」とは、西太平洋トラック
諸島(現ミクロネシア連邦チ
ューク諸島)での出来事を指
す。同諸島には連合艦隊の拠
点となる基地が置かれてい
た。東京帝大を卒業した金子
さんは44年3月、海軍主計士

官として赴任する。基地の設
営・修繕のために徴用された
軍属約2000人を指揮した。

「大学で大國が植民地争奪
のために戦争する仕組みを学
び戦争に批判的ではあったん
です。でも貧困にあえいでい
た郷里の埼玉・秩父の大人た
ちが『戦争が起きれば景気が
良くなる』と言っていたのを
聞いて育って。恥ずかしい話
だが『豊かになるなら戦争も
悪いことだけじゃない』とい
う意識があった。だから志願
して最前線に赴いたんです」

高揚感、あつという間に
崩れる。赴任して4カ月後
には武器や食料の補給が途絶
えた。手製の手投げ弾が作ら
れ、爆発実験が金子さん率い
る軍属に命じられた。「軍属
は人間扱いされなかった。だ
からむちゃな命令が来る。そ
れでタナベさんという人が志
願して、海岸で実験しようと
したら……」

タナベさんが持っていた手
投げ弾が突然爆発した。体が

宙を舞い、どざりと落ちた。

右腕は吹き飛び、背中が割れ
ていた。近くで実験を指導し
ていた少尉も心臓に破片が突
き刺さり、もがきながら死ん
だ。初めて人の死を間近で見
た瞬間だった。「なにが『戦
争も悪いことだけじゃない』
ですか。自分の甘さが心底、
嫌になりましたな」

農業経験のない軍属を指揮
してイモ栽培を試みたが、収
穫間近という段になって虫に
食われて全滅。わずかな食料
も軍人に優先的に配給され、
軍属には届かない。皆、みる
みる飢えていった。

「軍属たちを見回ると『主
任(金子さん)、腹減った、
何とかしてくれ』って細い
声で言われて。主計士官は飯
を食わすのが仕事ですが、ど
うしようもない。『腹がすか
ないよう寝ている』と命じる
ことしかできなかった」

生活を経て復員した。

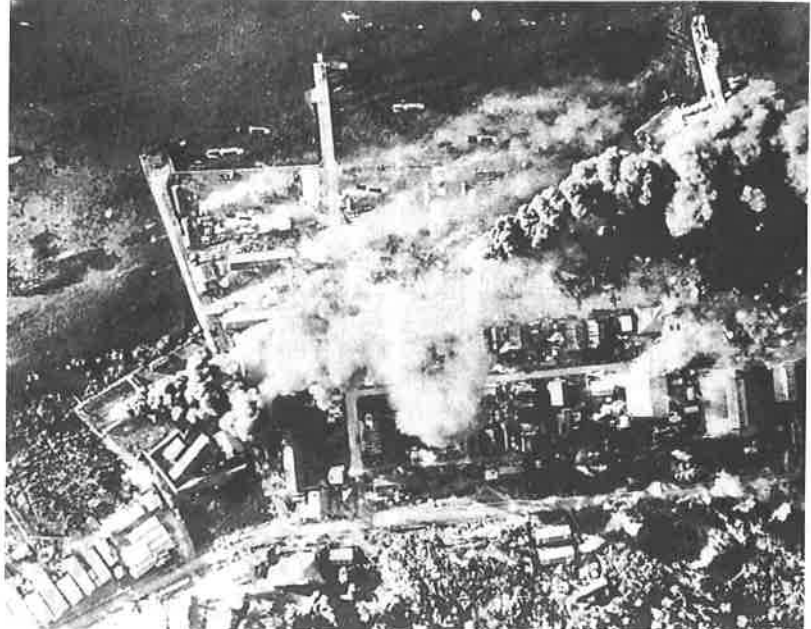
水脈の果て 炎天の墓碑を
置きて去る
自他ともに代表作として挙
げる名句だ。戦没者慰霊のた
めに建てた墓碑を島に残し、
自分は日本に引き揚げる駆逐
艦から島影を見つめる。万感
の思いを込めた。

この句には初めて明かされ
る後日談がある。帰国前、金
子さんは地元のカナカ族の部
族長に海の見える丘を指定し
て「墓碑を建ててくれ」と頼
んで島を去った。「碑は建っ
ていると信じていた。でも最
近、島に慰霊に行った人に聞
くと、そんな碑はどこにもな
いというんだ。納得しまし
た。実は島の日本人、カナカ
族の食料を奪っていたから、
慰霊なんてとんでもない、彼
らに恨まれていたんですね。
かっこいいことなんて何一つ
ない。これが戦争です」

今もふと、当時の記憶がよ
みがえる。耐えられなくなる
と、つえにすがって立ち上が
り、死者の名前を声に出して
読み上げる。金子さんは座禪
ならぬ「立禪」と呼ぶ。

でも唱える死者の名

ん(94)



米軍機に爆撃されるトラック諸島の日本軍基地。金子さんは「爆撃や機銃掃射の犠牲者もたくさんいた」と話す=1944年

えかねた軍属は食べ過ぎて腹
を壊し、死期を早めた。「朝
見回ると、やせて小さくなっ
た男たちがあちこち転がって
死んじまって。彼らは軍人じ
ゃねえ。食うために島に来た
のに、飢えて死ぬ。哀れでた
まらんかったなあ」
わずかに残った漁船で漁に
出て、米軍機の機銃掃射で死
ぬ。飢えのあまりフグを食べ
て死ぬ。金子さんは「死のオ
ンパレード」と呼んだ。「い
ろんなことがあった。あり過
ぎましたなあ……。豪放ら
い落人柄で知られる俳人の
言葉が、そこで途切れた。

再び「戦争のできる国」へ
と近づいているように見える
日本。ほんの69年前、異国に
しかばねをさらし、家族を引
き裂かれたことを忘れたかの
ように。あの時代をくぐり抜
けた著名人が「確かにあった
こと」を語り伝える。

主権の置かれていた厳しい状況
倍調査を見れば明らかだ。確か
倍晋三内閣の支持率は低落傾向
る。ところが政支支持率を見る
主支の支持率はヒクリとも動か

若いリーダーを育てよう



「安倍政権に不満や不安はある。
でも、この党ならいいかとなる見
つからない」。全国を回っている
こんな声をどれだけ聞くことか。
モヤモヤを解消する方法は限られ

解と言うが、相変わらず党内はまち
まちで、党として明確なメッセージ
が伝わらない。ここは分裂も恐れず、
とことん詰めないと国会も選挙も戦
えない。

もう一つは
若いリーダー
候補を党を率
へて育てること
だ。かつて

ている。例えば集団的自衛権の問題。
民主党は行使そのものに反対なの
か。憲法解釈変更という手続きに反
対なのか。海江田氏は「現時点では
行使は必要ない」というのが党の見

長い野党時代が続いた英労働党はブ
レア氏を20代の新人のころから長老
たちが「将来性あり」と目をつけて
我儘を重ねて育てた。その後、労働

民主党にも私が期待する若手が何
人かいる。有望株を育てるのも海江
田氏の、いや、誰よりも嶋山由紀夫
氏ら3人の首相経験者の役目だろ
う。「自分は失敗した」と反省して
いるのなら、それがせめてもの罪滅
ぼしというものだ。(専門編集委員)

昭和と歌謡を思う夏

大衆音楽

月評

川崎浩
(専門編集委員)

青い空全体が共鳴してい
うなセミの合唱は、逆に無
世界に迷い込んだ気になせ
どこか現実感が薄くなり、
くる音楽も「昭和」を浮か
がらせる。

「昭和」とくれば「歌謡
続く、この2語の強いつな
は、いつごろから一般化し
だろ。今、盛り場で「昭
謡を掲げる店のいかに多
か。

広い意味では「昭和」の
年間に生まれたり聴かれた
た大衆音楽を指すが、「昭
謡」として認識されるもの
う少し狭義であろう。「高
長期を支え社会的中心的存在



Interview 大橋

成熟のスタ

新作「ウィズ・ラヴ・トゥ

定期的に本格アルバムを制作し
安定した実力を聴かせる大橋美加
が、新作「ウィズ・ラヴ・トゥ
ナット」(ラ・ストラーダ)を発
表した。タイトル通り、名歌手ナ
ット・キング・コールにささげる
スタンダード集。

